

【活動名】 生徒指導における教育相談と規律指導の調和

解決すべき課題：学校の多忙な勤務形態が指摘されている昨今，取り組むべき課題の優先順位をつけるのは難しい。しかし，本来最優先すべきは生徒であり，あらゆる場面で生徒の立場に立った指導を行うことが大切である。ただ，生徒の立場に立つという意味をどう捉えるかが重要で，教員と生徒はまったく同等ではなく，教員が指導者としての権力を有していることを理解し，孤独に耐えながらも粛々と権力を行使できることが大切だと考える。要は，単純に子どもに寄り添うだけでなく，本当に必要なことを優しく，時には厳しく伝えられるかが重要なのである。これらを踏まえて中学校の生徒指導を考えると，教育相談（優しさ）と規律指導（厳しさ）の調和を教員間で理解して，どう実践していくかが課題と言える。

目的や背景：中学校現場の生徒指導では，注意や叱責などのイメージが強く，いわゆる規律指導の側面を重視する傾向がある。しかし，当然のことながら生徒理解のない規律指導は，生徒を追い詰めるだけの厳しい指導でしかなく，効果が上がるどころか，学校全体が荒れる原因になりかねない。生徒理解には教育相談が欠かせず，規律指導を厳しさとするなら教育相談は優しさと置き換えることができる。この厳しさと優しさのバランスを図った生徒指導がとても大切なのはどの教員も理解しているが，学校現場の生徒指導において合意形成を図ることは本当に難しく，完全にそれぞれの考えを統一して指導することはできない。とはいえ，それぞれの教員がバラバラに指導すると，生徒に迷いが生じ，教師との信頼関係を崩す可能性が高い。そこで，一定の方向性を理解して教員の協働性を基盤とした生徒指導を行うために，互いの思いや考えをシンプルに伝え合う対話の機会をつくることを目的として，実践を重ねた。

活動内容：平成 28 年 1 月頃より，生徒指導に関するアセスメント調査を行い，学校課題の把握に努めた。その結果，生徒や保護者は学力重視の傾向が強い反面，その他の活動に価値を見出せなかったり，生徒同士の関係性が希薄であったりする現状を確認することができた。学校では，生徒の実態に応じた臨機応変な生徒指導が求められるが，指導は教師個人という単独の形だけではなく，学年全体や学校全体といった組織的な取組を意識する必要がある。そこで，日常の取組に関してそれぞれの教員が持っている思いや考えを共有するために行った活動を次に示す。

なお，平成 29 年 8 月 22 日～ 8 月 25 日に「教育相談指導者養成研修」で学んだ内容は，それ以前からの活動につなげて 9 月以降の「3．ケース会議の実施」に活用した。

1. 生徒指導通信の発行【添付資料】

生徒指導の課題として，教職員間の合意形成を図る難しさが根底にある。教師の個性の違いを前提として，指導の全体性・統一性をある程度確保するためには，教職員間の対話が重要だと考える。その際，自分自身の考えを整理し，発信していく作業が必要であると考え，生徒を対象とした生徒指導通信を発行した。内容は生徒向けではあるが，全教職員にも配布した。内容は，学校課題はもちろんのこと，教育相談（優しさ）と規律指導（厳しさ）の調和を意識するとともに，教育活動の意味を再度考え直すきっかけになるよう，文章を工夫した。

2. 生徒指導研修会の実施「事例検討会・職員研修会」【添付資料】

教職員間の対話を目的に，「事例検討会」を実施した。各学年からの事例提供をもとにグループで話し合うことで，各教員の思いや考えを共有することができた。事例は生徒の実態に即したものであり，若手からベテランまで経験に応じた率直な意見交換ができたことに意味があると考え。鳴門教育大学との連携という観点から，教授を講師として迎え，「職員研修会」を実施した。「いじめ等の問題をめぐる対策論と人間論」をテーマとして，教師と生徒の関係性や生徒同士の関係性などに着目し，生徒指導の在り方について深く考えることができた。

3. ケース会議の実施（「教育相談指導者養成研修会」以降）【添付資料】

平成 29 年 8 月に参加した「教育相談指導者養成研修会」では，システムや具体的な実践等に関する多くの学びがあった。その中のキーワードである「チーム学校」の観点から，大学関係者，他校種の附属学校代表者，SC とともにケース会議を実施した。内容は，「2. 生徒指導研修会の実施事例検討会」を発展させた形になる。「教育相談指導者養成研修会」では，多面的な生徒理解，関係機関あるいは保護者との連携，さらにはケース会議の進め方について学んだ。それらの学びを活かしたケース会議の実施は，中学校からの事例提供であり，大学教授の専門的な助言や他校種（幼稚園，小学校，特別支援学校）との意見交換によって，生徒との関わりを深く考えることができた。「教育相談指導者養成研修会」の学びを実践に活かすことができたと考え。

活動の成果：活動内容に示したものは，学校の生徒指導上の課題と自分自身の課題意識を踏まえたものである。それぞれの活動を継続・発展し，生徒指導を充実させることが教員と生徒との関係を築くことにつながると考える。日々の生徒との関わりにおいて，教員は常に，「建前」，「上から目線」，「胡散臭さ」等の違和感を大切にする必要がある。ややもすると，生徒指導に関しては，個々の教員が指導を振り返らず，単独で進めてしまう場合もあると感じている。そうならないためには，自分の指導を謙虚に振り返り，他の教員の意見や生徒の反応に向き合える姿勢を大切することが肝要である。これまでの活動は，事後に明らかな生徒の変容が見られたわけではなく，教員の生徒指導力がはっきりと向上したわけでもない。ただ，生徒のことを真剣に考え，議論する場面が以前よりも増えたことによって，「教員が互いの思いや考えを感じられた」そのことが成果であると考えている。今後も継続的に活動していく中で，「教育相談と規律指導の調和」を図った生徒指導が定着し，ひいては，教師と生徒の関係性は良好なものになると考える。学校の教育活動は，生徒と教師の関係性により，質が大きく変容する。そうであるなら，大人である教員の在り方（人間性）が教育の質を決めることになる。私自身がそれをはっきり自覚できたことも大きな成果である。

アピールポイント（アイディア）：生徒指導の理論を先行研究等から学び，実際の指導については，同僚教員との対話の中で方法を模索した。活動の中で常に意識したのは，「人とのつながり」である。学校のあらゆる場面において，教員と生徒の関係性や，生徒同士の関係性等の観点から指導することが生徒の実態に合うと考えたからである。また，私個人の考えを整理しながら，他の教員との対話の機会を活動内容以外でも積極的に持つようにした。それらを継続していく中で，「教育相談指導者養成研修」の際に学んだ「チームとしての生徒指導体制」を意識したケース会議を行った。附属中学校である本校は，特色ある教育活動が展開されているが，連携の観点でも大学・他校種の附属学校とともに，ケース会議を行えたことは非常に意味があった。大学からは，学長をはじめ，教授の方々から専門的な意見を聞き，他校種の附属学校代表者（附属小学校）からは，小学校時代の様子を具体的に聞くことができた。また SC からは，附属小学校・附属中学校の両学校を兼務している立場からの意見を聞くことができた。

【添付資料】

《活動内容：1. 生徒指導通信の発行》

臙脂通信

平成28年 6月 20日 (月)

責任と信頼

今回は、ある方の言動から「責任と信頼」について考えてもらおうと思います。

皆さんは、毎日正門で警備をしてくれている〇〇さんを知っていますか。登下校時には、正門付近で交通整理をしながら安全を確認してくれています。また、皆さんは知らないかもしれませんが、定期的に学校の敷地内を巡回して、危険箇所がないかをチェックしてくれています。さらに、遅れて学校へ来たり、元気がなかったりする皆さんの様子を心配して先生方へ連絡をしてくれることもあります。

基本的には、外でのお仕事なので、季節や天候の変化により、厳しい状況での勤務になることも少なくありません。それでも、真剣に仕事をされる北上さんの姿に頭が下がります。また、どんな時でも優しく丁寧な言葉遣いで接して下さるお人柄に心が温かくなります。皆さんのことを最優先に考えた妥協しない仕事ぶりから、「責任」を果たすことの大切さをいつも教えられています。

皆さんの学校生活は、保護者の方、先生方だけが支えているわけではありません。警備員の〇〇さん、事務室や購買の方々等、たくさんのおかげで成り立っています。そのことを忘れてはいけません。あらゆる立場の人が「責任」を果たすことで、日常生活が送れているということです。中学校生活においても将来においても皆さん自身が「責任」を果たすことで「信頼」され、周りの人を支える存在になるはずです。「信頼」され、周りの人を支える存在は、周りの人からも自然に支えてもらえるようになります。そう考えると、人とのつながりで大切なのは、「責任を果たすことで築かれる信頼関係」ということになります。

「責任」を果たし、「信頼」を得ることは、決して簡単なことではありません。〇〇さんのように、常に変わらず「責任」を果たすことがどれだけ難しく大切なかをしっかりと理解し、これからの生活を送ってください。

臙脂通信

平成28年 9月 12日 (月)

進路を考える

先日文化祭では、3年生の皆さんの活躍が本当に素晴らしく、1年生の頃を知っているだけに、皆さんの成長した姿に感動させられました。

さて、これからの目標は高校進学ですね。もう受験生としての現実を受け止め、日々勉強に励んでいるのかもしれない。ただ、一心不乱に勉強できている人は少ないのではないだろうか。何かしらの不安や疑問を抱え、自分と向き合いながら進んでいるのが現実だと思います。そこで、皆さんには、次のことについて深く考えてほしいと思います。

まず、当たり前ですが、『何のために高校へ進学するのか』ということです。たくさん的高校の中から選ぶ志望校には、志望動機があるはずです。皆さんの本音として、高校に入って何がしたいですか。その高校で笑顔になっている自分を想像できますか。高校進学は入学することが目的ではなく、入学後どう成長するかが大切なのです。そこでじっくり真剣に考えて入学する高校だからこそ、しんどいことがあっても思いが支えになり、高校生活をがんばれるのだと思います。

次に、『将来(大人)の自分を想像する』ということです。皆さんの多くは、高校から大学進学を経て就職するという、ある程度の見通しをもっているように思います。そのために学力は不可欠で、世の中も学歴で人を判断する場面が少なからずあると言えます。でも、学歴だけが本当の意味で人の価値を判断する基準になるとは思えません。もちろん、自分を成長させるために学力を高め、さまざまな課題を解決していく能力を身に付けることは大切です。ただ、それは一体何のためにでしょうか。自分が人より優れていることで優越感を味わうためでしょうか。もしそう考えてしまうのなら、そんな寂しいことにはなりません。自分の優れたところを実感することが悪いのではなく、そのことだけを拠り所にしてしまうことで、周りからの信頼は失われることを知っておいてください。

進路を考えるということは、自分の生き方を変えるということです。さらに言うと自分ごどんな人間であるのかを考えると、私も本当はよくわからないのですが、1つははっきりしていることは、「人間は誰もパーフェクトではない」ということです。だとすれば、自分の力が及ばない時は、周りの人に助けを求めたりする必要があります。そして、自分の力で周りの人を助けることもできるはずです。そう考えていくと、自分がどんな人間になって、周りの人に何ができるのかが見えてくるはずです。人のためになることを喜びと感ぜられる時が、自分にとっての幸せになるのかもしれないと私は考えています。

日々の努力することが必要なのは分かっていながら、不安が大きく自分の気持ち整理できずにいる人も一心不乱に勉強できている人も、一度立ち止まってみてください。私たち教員も親御さんもみんな受験を経験し、不安に押しつぶされそうになった経験をしています。だからこそ、『がんばれ』という言葉は簡単に使いたくはないのですが、あえてここでは伝えたいと思います。

「心から応援しています。がんばって！」

臙脂通信

平成28年 10月 28日 (金)

ルールを守ること

見通しがよく、人や車の通行が少ない道の横断歩道で、赤信号を待っている男兄弟を見かけました。小学校高学年くらいの兄は、車が走ってこないのを確認してから、幼稚園くらいの弟の手をとって渡ろうとしたが、弟は嫌がって渡りませんでした。そして、青信号になってから、弟は左手でお兄ちゃんの手を握り、右手は大きく上に挙げて横断歩道を渡り始めました。少し恥ずかしそうに兄も手を挙げ、2人仲良く歩いている姿がとても微笑ましく思いました。

皆さんは、兄弟のやりとりから何を考えますか。幼いときは何の疑いもなく、教えてもらったルールを信じて守ろうとするのに、年齢を重ねるごとにルールを守らなくなっている自分があるように思いませんか。兄は、赤信号で車が絶対に来て来ないなら、渡っても問題ない判断したのだと思いますが、思い直して弟の気持ちを大切にしたい心の動きを考えてみてください。

社会にはルールがあり、それを守ることが安心して生活が送れるようになっています。でも、普段から「ルールは何のためにあるのか」という意味を深く考えている人は少ないと思います。私は、自分や周りの人にとってどんな影響があるのかを理解してうえで、ルールを守ることが大切だと考えます。ただし、一方で意味をどう考える必要のないものもあります。それは、「人が傷つく行為」です。自分も周りの人も身体的・精神的に傷つけてはいけないというルールは、理屈抜きで守る必要があるものです。

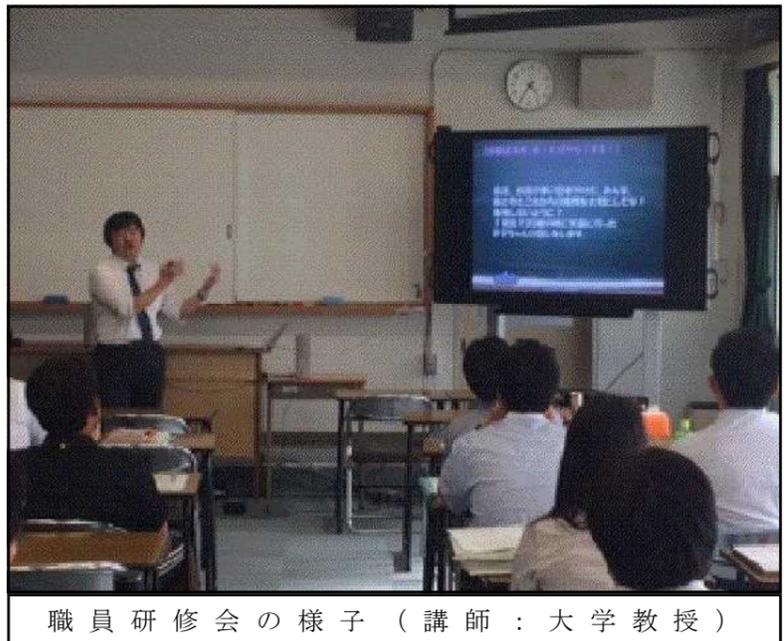
附属中学校でも様々なルールがありますね。私は、例えば髪型や服装等の校則が守れない人の人格を否定する気はありません。ただ、校則を守れないことで生活が乱れ、心が安定せず、学力が低下する可能性はとも高いと考えています。その理由は、「自分は大丈夫」と思っている自分自身をコントロールすることが本当に難しいからです。そういう意味で、学校には校則があり、それを守ることが自分をコントロールする経験になると考えます。大人になればルールを守るようになるのではなく、皆さんが大人になるまでに、ルールを守る意味を考え、ルールを守る経験をどれだけ積んだかが大切なのです。

『ルールは破るためではなく、守るためにあります。』

《活動内容：2. 生徒研修会①事例検討会，②職員研修会の様子》



事例検討会の様子



職員研修会の様子（講師：大学教授）

《活動内容：3. ケース会議の概要及び様子》

【ケース会議】			
1 概要			
目標	附属学校園における連携体制を見直し、各校の生徒指導（教育相談）の充実に努める。	時期	9月12日（火）放課後 16:30～17:30
参加者	附属学校園（幼・小・中・特支）の担当者 ※附属学校職員は全員 大学（学長・教授3名・SC）	内容	現在の具体的な事例（課題）をもとにした情報交換 ※不登校生徒への関わり
工夫	1 各校種における生徒指導上（教育相談）の課題と思われる事例を口頭で説明し、参加者全員で協議する中で、教師の思いや具体的な指導に共感できるようにする。 2 各校種の学校文化を尊重したうえで、子供の将来的な展望を視野にいれた意見交換になることを前提とする。 3 大学の教員やSCから、専門的な観点で助言してもらう。		
2 流れ			
時間	所要時間(分)	研修内容	準備物・留意点など
16:30	5	1 進め方や留意点の確認（研修担当者）	○ 傾聴の姿勢を重視することを伝える。
16:35	40	2 事例検討会 中学校の事例を発表 ※その都度協議	○ 協議で意識するポイント ① 教育相談のシステムと実践の2観点 ② 他校種の文化を尊重した連携の視点
17:15	10	3 まとめ 大学教員・SCからの助言	
17:25	5	4 リフレクション 自己の考えや実践を省察	
3 評価			
受講者の自己評価		受講者から、運営する側への評価	
・自校の事例について、他者からの意見を参考に見直すことができたか。 ・解決策を校種間の連携の観点から考えることができたか。		・活発な意見交換が行えるような工夫がされていたか。 ・教育相談のシステム及び実践（捉え方や子どもとの関わり）についての観点で話し合い、生徒指導（教育相談）の充実に役立ったか。	

ケース会議の概要



ケース会議の様子